

スラッシャー先生ご退任に当たって

理事長 神 山 繁 實

先生が本学を去られるに当たって一言感謝の言葉を述べさせていただきたい。先生は、米国私学の雄、デューク大学を卒業され、沖縄キリスト教団への米国メソジスト教会の短期教育宣教師として3年間本学院で教鞭を執られた。任期満了後、与儀順子さんと結婚され、ミシガン州立大学で修士号と博士号を取得された。言語学のご専攻である。ご夫妻には二人の息子さんとひとりの娘さん、それに次男夫妻には三人の子供さんがおられる。

先生は、草創期の沖縄キリスト教学院に触れてこられた数少ない生き証人の一人であり、当時の学院の卒業生との交流が今尚続けられている。

先生ご夫妻は、米国メソジスト教会の教育宣教師として再来日され、関西学院大学と国際基督教大学で教鞭を執られた。先生の教育・研究・学内貢献については、詳しい履歴が添付されているので、そちらをご参照いただきたい。

さて、2002年4月から本学沖縄キリスト教短期大学の教授として教鞭を執られた。それは2004年4月に新設される沖縄キリスト教学院大学の教授予定者として、短大英語科教授としても英語教育に従事していただい

た。

また先生は、月曜礼拝の説教を担当してくださり、先生の「アメイジング・グレイス」について話されたことは、今までも記憶に鮮明に残っている。

スラッシャー先生には、人文学部長として更に、第二代学長として貢献をしていただいた。勿論、短大学長も兼務していただいた。また、2008年に新設された本学大学院異文化コミュニケーション学研究科の初代研究科長として先生のキャリアを活かして、研究科の教育内容を整備していただき、英語教育分野の主任教授として大学院の発展に大きく貢献された。その他、学術雑誌の編集委員や日本言語テスト学会を設立、初代会長を務められた。先生のお働きは多岐にわたるが、とりわけ本学院の創設者の一人である仲里朝章牧師が強調された「沖縄・キリスト・平和」の建学の精神を教育の基盤に置いてご貢献をいただいた。また先生は誠心誠意「学院」を愛し、「沖縄」を愛された。

これまでの先生のお働きに深く感謝すると共に、今後のご夫妻の歩みの上に神の御祝福が豊かにあるようにお祈り申し上げます。